

総合的な学習の時間

(1) 全体計画

令和元年度 総合的な学習の時間 全体計画

<p><関係法規> ○日本国憲法 ○教育基本法 ○学校教育法 ○学習指導要領 ○県の教育施策 <地域の実態> ○学習や地域行事に協力的である。 ○子どもを見つめる目が高い。</p>	<p><学校の教育目標とめざす子どもの姿> 豊かな人間性をもち、主体的に考え行動する子どもの育成 ○たくましい子 (運動に親しみ、粘り強くやり抜く子) ○やさしい子 (よさを認め合い、自他を大切に子) ○かしこい子 (学習の伸びを実感する子)</p>	<p><児童の実態> ○体験が不足している。 ○将来の夢を持っていない。 <教職員・保護者の願い> ○意欲的に学習する子 ○自分の町が好きの子</p>
--	---	---

<総合的な学習の時間の目標>
探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

<p><地域との連携> ○福祉・地域在住のお年寄り ○国際理解：ALT ○環境：市役所 ※GTや交流対象者として学習に参画</p>	<p><本校の総合的な学習の時間の目標> 探究的な見方・考え方を働かせ、身の回りや自分の住む町(地域)に目を向け、様々な人と関わることを通して、持続可能な社会づくりに向けての課題を粘り強く追究し、自分を見つめ、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。 (1) 探究的な学習の過程において、地域の人、もの、こと等にふれる活動や体験を通して、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさ、探究的な学習のよさを理解できるようにする。 (2) 地域の人、もの、ことの中から自ら課題を見付け、その解決に向けて見通しを持って調べ、得られた情報をもとに他者と考えるための技法を活用しながら整理・分析し、根拠を明らかにして目的に応じてまとめ・表現することができるようにする。 (3) 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を養う。</p>	<p><各教科等との関連> ①障害のある人の思いや願い(福祉)との関連(3年) 国語：はたらく犬について調べよう 道徳：耳の聞こえないお母さんへ ②植物や生物(環境)との関連(4年) 社会：住みよいくらし 理科：季節と生き物 ③地域に暮らす人達が大切にしている文化や価値観(国際理解)との関連(5年) 社会：環境を守る人々 図工：想像の翼を広げて ④校区の高齢者の思いや願い(福祉)との関連(6年) 社会：憲法とわたしたちのくらし 道徳：車いすでの経験から ※学習で習得した知識や技能を活用させる。</p>
---	--	---

年	探究課題	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
3年	安心・安全な町づくりへの地域の取組と支援する人々 【安全】	子供達の安全を願う気持ちから活動してある「見守り隊」や、安心・安全な町づくりに向けて地域の様々な取組や支援があることを知り、自分から挨拶をしたり感謝の気持ちを伝えたりすることのよさが分かり、安全マップを作成することができる。	地域の安全に関心を持ち、校区内の通学路や公園等の危険な所に着目して課題を見出し、「入りやすい場所」「見えにくい場所」の観点から調べ、地域安全マップにまとめることができる。	不審者や危険箇所への危機感を持ち、自分達が安全に暮らせるように願って、学んだことを生活に生かしていこうとする意欲を持ち、災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて的確な判断の下に、自らの安全を確保するために行動しようとする。
	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々 【町づくり】	地域にはいろいろな人達が住んでいることや地域活性化に向けて様々な取組を行っている施設があることを知り、地域の人・もの・ことのために、今の自分達にできることがないかを考え、実践することができる。	園児や視覚障害者等と交流し、うまくいかない経験から交流の仕方についての課題を持つとともに、幼児や障害のある方も共に生きていくことを知り、幼児や障害のある方とのよりよい関わり方について調べ、調べたことをもとに交流し、考えを深めることができる。	学習してきたことから、いろいろな方と共に生きていることに気付き、自分にできることは協力していこうという態度を育てる。
4年	身近な自然環境とそこに起きている環境問題 【環境】	延命公園の自然に対する自分の追究の仕方や認識の深まりを振り返ることができるとともに、友達の追究のよさを認めることができる。	校区にある延命公園の自然に関心を持つことから自分の課題を持ち、延命公園で見つけた植物や野鳥、水辺の生き物、昆虫や樹木について調べ分かったことや調べたことなどをもとに交流し、考えを深めることができる。	一年間を通して延命公園の自然を追究し、自分達の校区や大牟田市のよさを感じ、地域を愛する気持ちを育むことができる。
	実社会で働く人々の姿と自己の将来 【キャリア】	今の自分があるのは、周りにいるたくさんの人達の支えがあったからであることを知り、それを伝えるための方法を考えることができる。	自分の成長に関心を持つことから課題を持ち、収集した情報や取材をして考えたことなどをまとめ、10歳の決意としてまとめることができる。	自分で課題を設定したり表現方法を工夫したりして、10歳の決意に意欲的に取り組み、自分の成長について自分の考えを持ち、これからの生き方や夢について考えることができる。
5年	防災のための安全な町づくりとその取組 【防災】	自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識する。	現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるようにする。	自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに日常的な備えができるようにし、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。
6年	地域の多様な立場の人の暮らしを支える仕組みや人々 【福祉】	地域には様々な立場の人が暮らしていることやその人々を支える仕組みがあることが分かり、それぞれの立場や状況、思いや願いを知るとともに、支え合う社会の大切さに気付く。	地域の様々な立場の人の視点から地域を見直すことで課題を見付け、情報を収集し、それをもとに自分達にできることを考え、発信したり実践したりすることができる。	地域の様々な立場の人に進んで関わり、誰もが幸せに暮らせるために、自分達にできることを他者と協力して企画し、実行することを通して、全ての人と共に生きることを大切にしていこうとする。
	地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々 【伝統文化】	大牟田市の世界文化遺産(近代化産業遺産)に興味を持ち、歴史的価値や関わっている人々の思いや、伝統や文化を守り続けてきた先人の努力を理解し、目的に応じて適切な思考ツールを選択し、それを使って話し合うことができる。	大牟田市の世界文化遺産について調べたことや聞いたことをもとに、その魅力を伝えるための最適な方法を考えて話し合い、他教科等で得た知識及び技能を本単元の各場面で活用し、また本単元での学びを他教科等で生かすことができる。	自分達で決めた活動を実践し、大牟田市の世界文化遺産に関わっていく中でその価値や魅力に気付き、それに携わった自分達の価値も自覚し、生涯を通して郷土と関わっていこうするとともに、自己の生き方について考える。

<本校における総合的な学習の時間の内容>
○横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題
【主な学習対象】①障害のある人の思いや願い(福祉) ②自分を支えてくれている人の思いや願い(児童の興味・関心) ③地域の植物や生物(環境) ④地域の防災設備や取組(環境・防災) ⑤地域に暮らす人達が大切にしている文化や価値観(国際理解) ⑥校区の高齢者の思いや願い(福祉)
【主な学習事項】※・自分達にできることの計画と取組・学習前と現在の自分の考え方の変容
①・アイマスク体験、点字・手話・盲導犬等の学習・視覚、聴覚障害者の生活と思いや願い
②・10歳の決意・自分の周りにいる人達の思いや願い ③・延命公園ウォッチング・環境保全やよりよい環境創造のための取組
④・石炭史跡巡り等・大牟田市に対する思いや願い ⑤・認知症絵本教室・高齢者の生活と思いや願い

<学習活動>
○校区の特色を生かした学習内容を設定する。3年生は「地域」と関連させた「安全マップ」、「福祉」と関連させた「広げようふれあいの心」、4年生は「環境」と関連させた「延命公園ウォッチング」、「児童の興味・関心」と関連させた「10歳の決意」、5年生は「環境」と関連させた「米と私たちの生活」、「地域」と関連させた「石炭の歴史」、「安全な暮らし」、6年生は「福祉」と関連させた「ユニバーサル社会」、「国際理解」と関連させた「平和な未来」、など学年の発達段階に合った課題解決を行う。
○単元は年間2～3単元の大単元構成とし、学習対象に繰り返し関わり課題解決ができる学習活動を保証する。
○学年で協力して学習活動を進め、5・6年は特別活動との関連を考慮して取組を行う。
○ESDの視点に立った学習構成を仕組む。

<p><指導方法> ○児童の課題意識を連続発展させる支援、個に応じた指導の工夫を行う。 ○内容に迫るために、意図的に身近な地域の自然や文化、人と関わる体験的な場を設定し、子どもが追究したい課題を設定させる。 ○協働的な学習活動を充実させる。(課題に応じたグループの編成) ○子どもの追究の方法や内容について、表現や発信の方法の情報を提示する。 ○単元ごとに「書くこと」と「発信による振り返りの場」を位置付け自覚させる。</p>	<p><学習の評価> ○単元ごとに「育てようとする資質や能力及び態度」の評価規準を設定し、担任・担当が評価を行う。 ○評価規準を基に、ポートフォリオ(子どものノートやカード記述等)授業の発言内容等から評価を行う。特に「変容した考えの自覚」を重視する。 ○学期・学年末の指導計画の評価を実施する。</p>
---	---

<指導体制>
・地域人材や保護者ボランティアによる協力体制の充実(校外でのグループ学習における補助員、学習において必要な人材・専門家・講師等の情報提供、学習に関わる講師等) ・T・Tの日常化を図る ・ワークショップ研修の重視 ・パソコン・図書館の情報の充実
・担任外の教職員による支援体制の充実(教務を中心とした連絡調整、学年間での連絡調整)